

# 鉄軌道輸送の安全にかかわる情報（平成 21 年度）の訂正について

平成 23 年 8 月

平成 22 年 7 月 29 日に公表しました「鉄軌道輸送の安全にかかわる情報（平成 21 年度）」につきまして、列車事故及び踏切事故として計上していた 1 件の死傷者数に変更があった旨の報告（負傷者数 1 名減）が鉄道事業者よりありましたので、一部の数値を以下のとおり訂正いたします。（赤字下線の部分が訂正箇所になります。）

## ●鉄軌道輸送の安全にかかわる情報（平成 21 年度）【概要版】

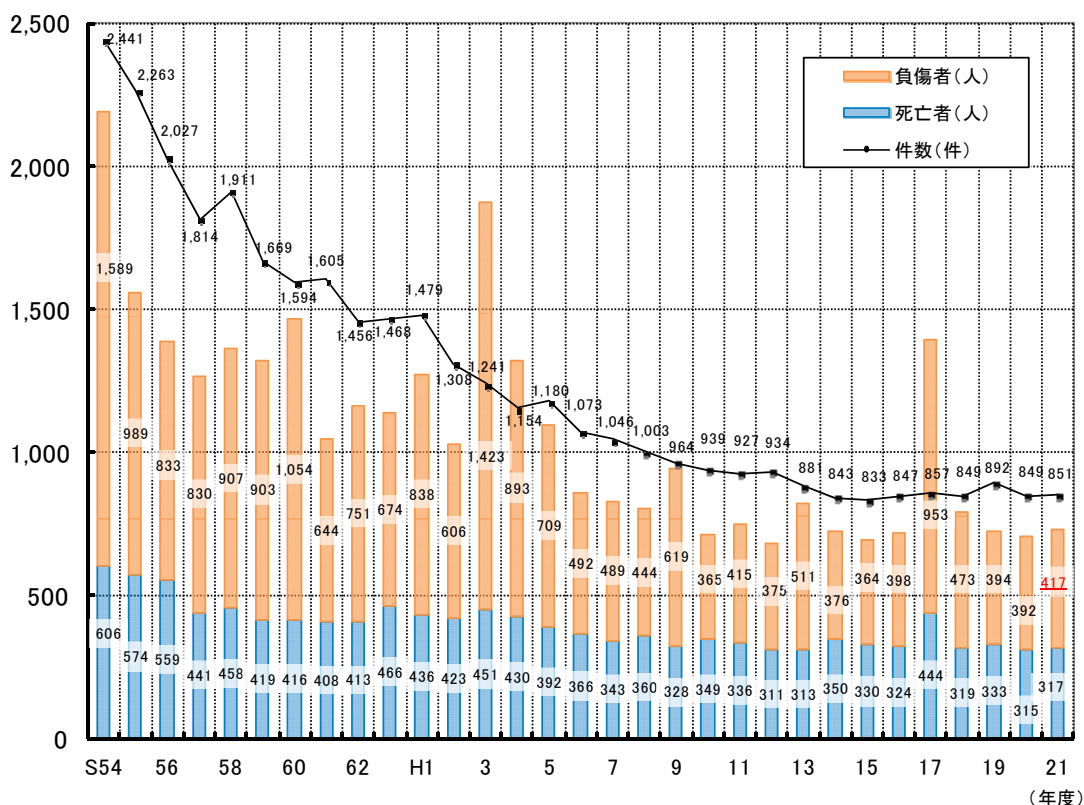
【P 1】

### 1. 平成 21 年度に発生した運転事故の件数及び死傷者数

運転事故件数は、851 件で対前年度 2 件の増でした。これは、踏切障害事故件数の増によるものです。なお、乗客の死亡はありませんでした。

- 件 数 851 件 対前年度 2 件(0.2%)増
- 死 傷 者 数 734人 対前年度 27人(3.8)%増
- うち死亡者数 317 人 対前年度 2 人(0.6%)増

鉄軌道運転事故の件数及び死傷者数の推移



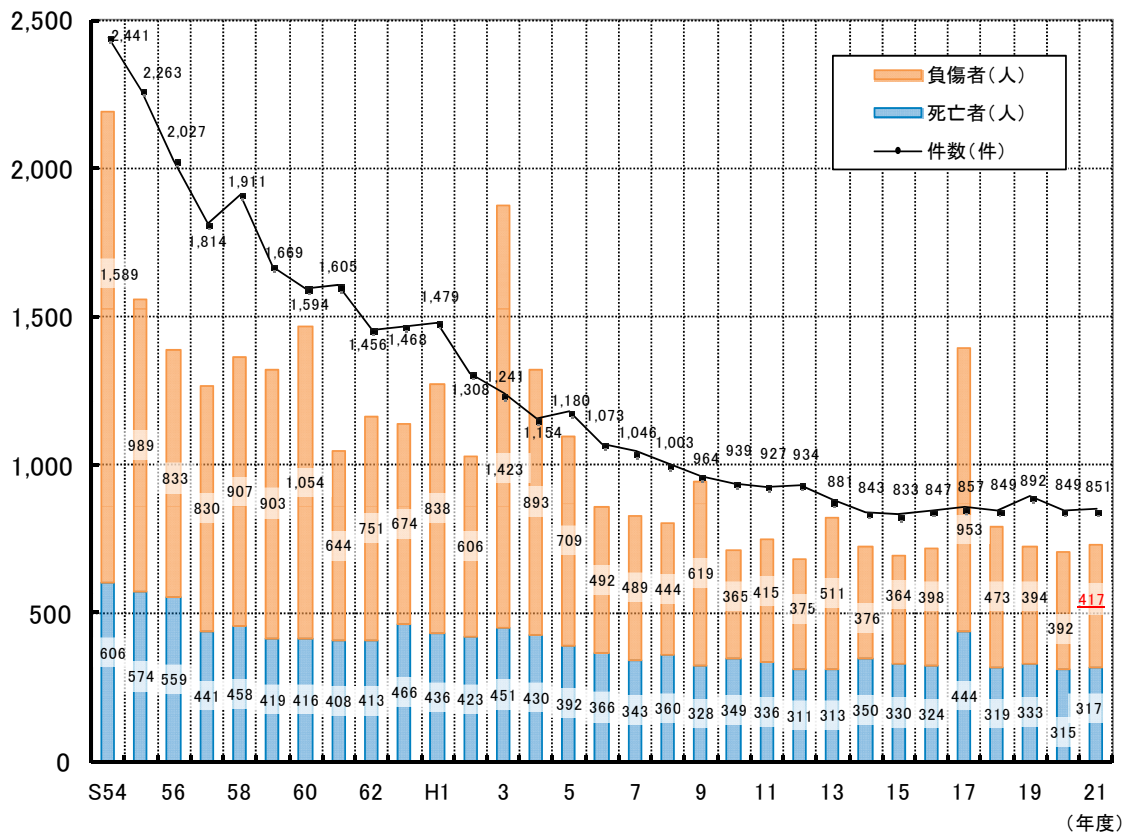
## ●鉄軌道輸送の安全にかかわる情報（平成21年度）

### 【P7】

#### (1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

- 運転事故件数は、長期的には減少傾向にあり、平成13年度からは800件台で推移しています。平成21年度に発生した鉄軌道の運転事故は851件であり、対前年度2件(0.2%)増でした。
- 運転事故による死亡者数は、317人であり、対前年度2人(0.6%)増でした。運転事故による死亡者数は、近年ほぼ横ばいとなっています。
- 運転事故による死傷者数は734人であり、対前年度27人(3.8%)増でした。運転事故による死傷者数は、件数と同様に長期的には減少傾向にありますが、JR西日本福知山線列車脱線事故があった平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故があった年度の死傷者数は多くなっています。

図4: 鉄軌道運転事故の件数及び死傷者数の推移



【P 1 1】

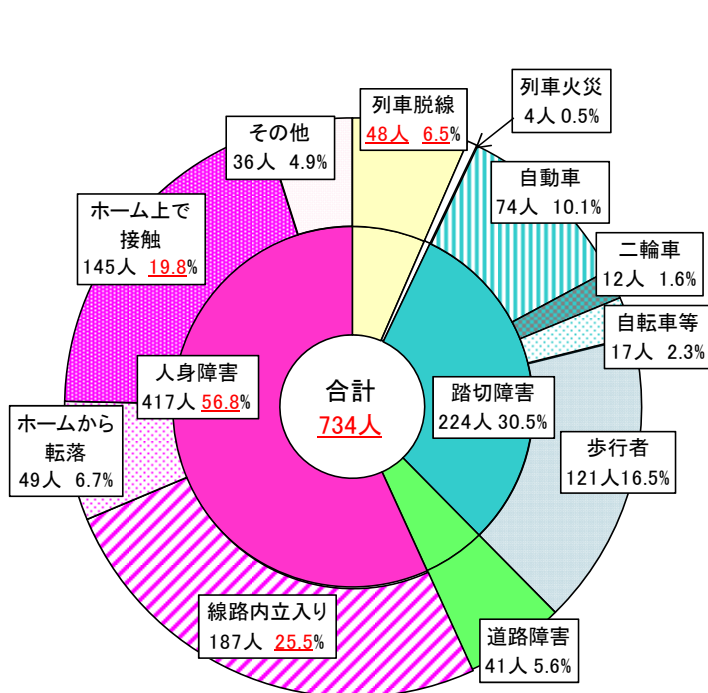
(4) 事故種類別の死傷者数

○平成 21 年度の運転事故による死傷者数は、(1)に記述したとおり **734** 人であり、その内訳は、人身障害事故によるものが 417 人(56.8%)で対前年度 28 人減、踏切障害事故によるものが 224 人(30.5%)で対前年度 12 人増、道路障害事故によるものが 41 人(5.6%)で対前年度 1 人増などとなっています。

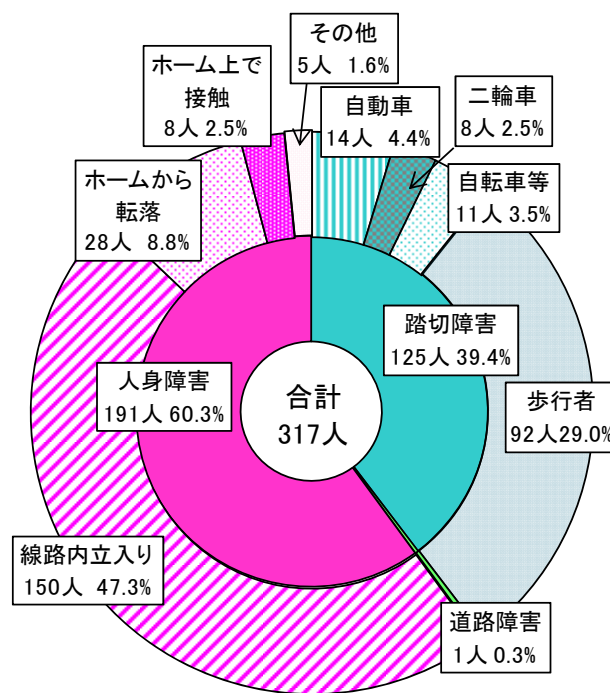
○踏切障害事故による死傷者 224 人のほかに、踏切障害に伴う列車火災事故及び列車脱線事故による死傷者が合わせて **49** 人あったので、踏切事故による死傷者は **273** 人(37.2%)でした。

図7: 事故種類別の死傷者数(平成 21 年度)

① 事故種類別の死傷者数



② 事故種類別の死亡者数



(注: 自殺を直接原因とする死傷者は含まない。)

【P 1 2】

(5)平成 21 年度における重大事故の発生状況等

○平成 21 年度は、重大事故(死傷者 10 名以上又は脱線車両 10 両以上)が 2 件ありました。

表2:重大事故の発生状況等(平成 21 年度)

年月日	事業者名	線名	場所	事故種類	死亡	負傷	脱線両数	概要
H21.12.28	JR 北海道	根室線	富良野駅構内	人身障害	0	12	0	<u>列車が、停止していた排雪モーターカーに衝突。</u>
H22. 1.29	JR 北海道	函館線	深川駅～妹背牛駅間	列車脱線	0	<u>45</u>	1	<u>踏切道において、列車が大型トラックと衝突し脱線。</u>

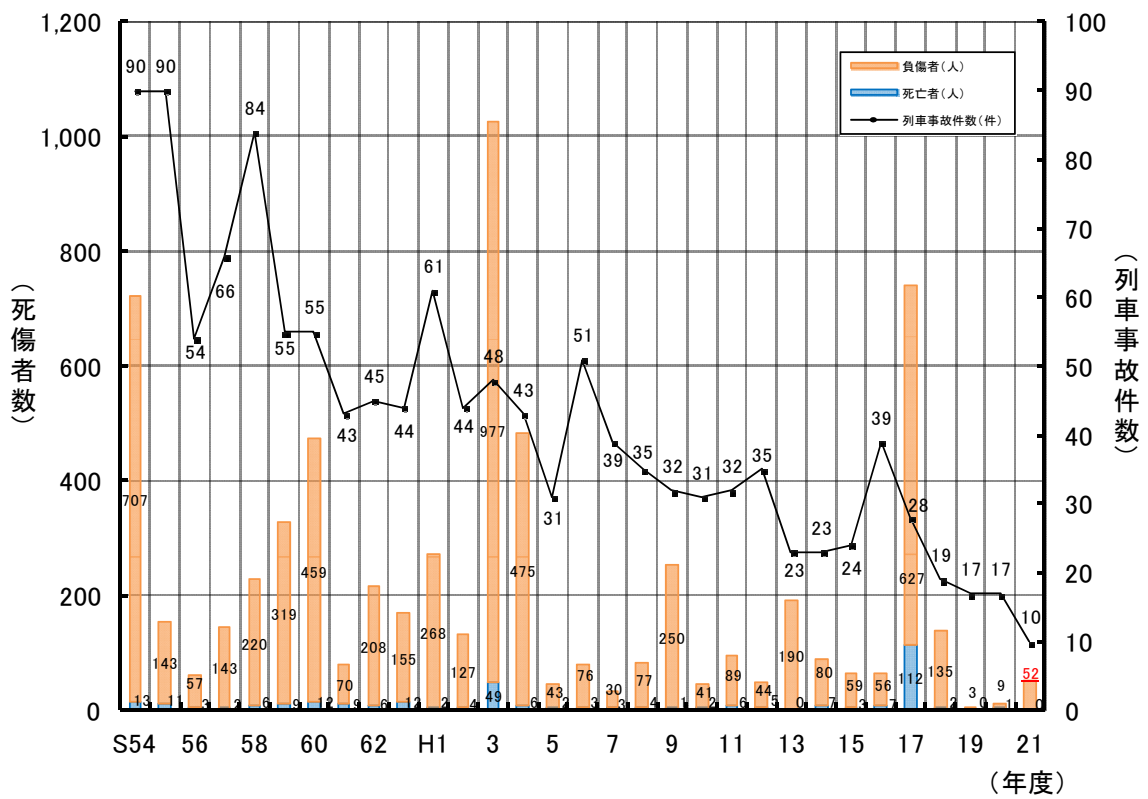
○なお、運輸安全委員会の調査対象となった運転事故は、平成 21 年度発生した運転事故 852 件のうち 10 件(1.2%)でした。

【P 1 3】

2. 2 列車事故の発生状況

- 平成 21 年度に発生した列車事故は、2. 1に記述したとおり 10 件で対前年度 7 件 (41.2%)減、列車事故による死亡者はなく、負傷者数は 52 人でした。
- 列車事故は、長期的には減少傾向にあり、平成 18 年度からは 10 件台で推移しています。

図8:列車事故の件数及び死傷者数の推移



【P 1 4】

2. 3 踏切事故の発生状況

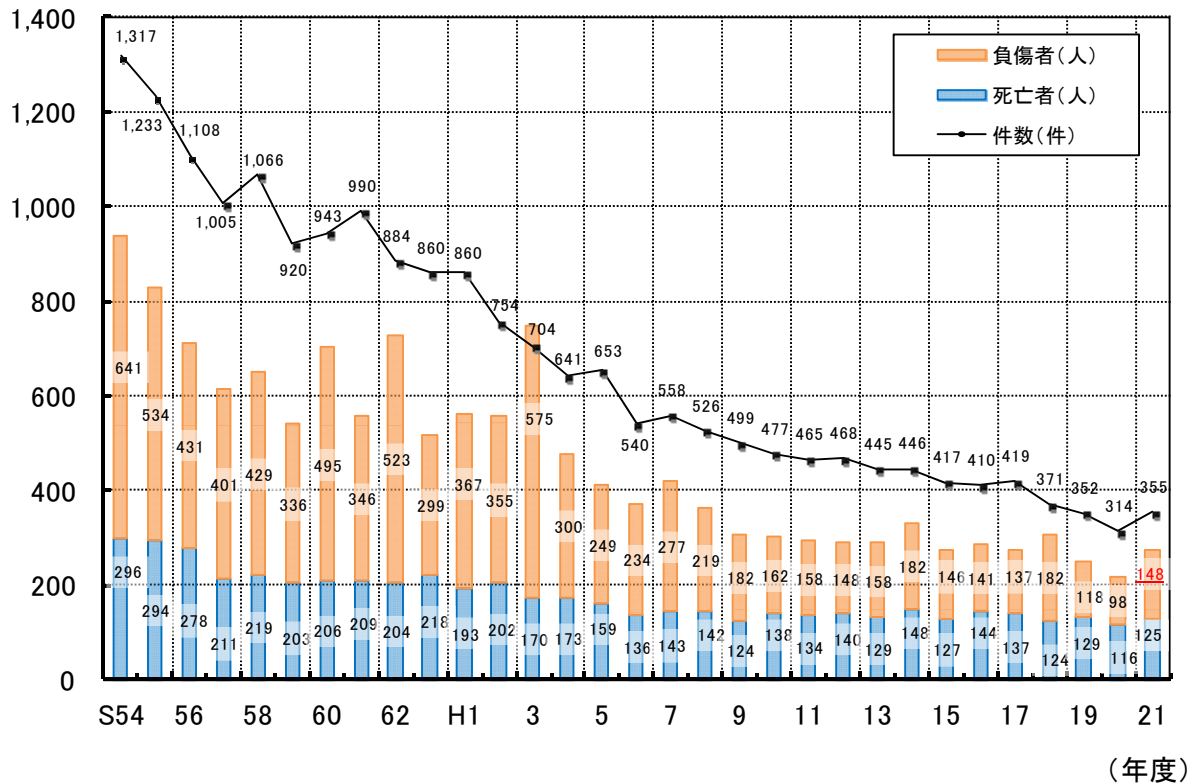
(1)踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

○平成 21 年度に発生した踏切事故は、2. 1に記述したとおり 355 件で対前年度 41 件 (13.1%)増、踏切事故による死亡者は 125 人で対前年度 9 人(7.8%)増、死傷者は 273 人で対前年度 59 人(27.6%)増でした。

○踏切事故は、踏切遮断機等の整備等により、長期的には減少傾向にあり、運転事故に占める割合も低くなってきましたが、それでも依然として 41.7%を占めています。

○身体障害者の方が死傷した踏切事故は 2 件(聴覚障害の方が第4種踏切道で死亡した事故及び肢体不自由の方が第1種踏切道で死亡した事故が、それぞれ 1 件)でした。

図9:踏切事故の件数及び死傷者数の推移



【P 3 4】

## 7 輸送の安全にかかわる施設等に関する事項

### 7.1 踏切保安設備の整備状況

#### (1) 踏切道数の推移

○平成21年度において、2.1に記述したとおり踏切事故は運転事故の41.7%を、また踏切事故による死傷者は運転事故による死傷者の 37.1%をそれぞれ占めており、踏切事故防止は鉄道の安全確保上、極めて重要なものとなっています。